

# 製品安全データシート

作成：2011年03月22日


改訂：2022年05月12日

確認：2022年05月12日

## 1. 化学品及び会社情報

製品名	フルオロセル WDF
推奨用途	臨床検査測定用
供給者の会社名称、住所及び電話番号	シスメックス株式会社 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
緊急連絡先	シスメックス株式会社 テクノパーク 〒651-2271 神戸市西区高塚台4丁目4番地の4 TEL: (078)991-1911(代表) FAX: (078)991-1917

## 2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類	
物理化学的危険性	区分に該当しない
健康に関する有害性	
急性毒性(経口)	区分 4
環境に対する有害性	区分に該当しない
GHS ラベル要素	
危険有害性を表す絵表示	
	GHS07
注意喚起語	警告
危険有害性情報	H302 飲み込むと有害
注意書き	
安全対策	なし
応急措置	P301+P312 飲み込んだ場合:気分が悪い時は医師に連絡すること。
保管	なし
廃棄	P501 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
他の危険有害性	情報なし

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学的特性に関する情報	溶液
危険有害成分	
化学名又は一般名 濃度(範囲)	エチレングリコール(96.9 W/W %)
CAS 番号	107-21-1
労働安全衛生法官報公示整理番号	別表第 9-75 号
化審法官報整理番号	2-230
化学名又は一般名 濃度(範囲)	メタノール(3.00 W/W %)

CAS 番号	67-56-1
労働安全衛生法政令番号	別表第 9-560 号
毒物・劇物の別	該当しない
化審法官報整理番号	2-201

#### 4.応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 医師の手当、診断を受けること。
皮膚に付着した場合	皮膚を速やかに洗浄すること。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 医師の手当、診断を受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 医師の手当て、診断を受けること。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	情報なし

#### 5.火災時の措置

適切な消火剤	粉末消火剤、二酸化炭素、水噴霧、耐アルコール性泡消火剤、砂。
使ってはならない消火剤	棒状注水
火災時の特有の危険有害性	情報なし
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 避難して安全な距離から消火すること。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

#### 6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外は近づけない。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 作業者は適切な保護具(8. 暴露防止措置及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
環境に対する注意事項	風上に留まる。 低地から離れる。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 環境中に放出してはならない。 危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	除去後、汚染現場を水で完全に洗浄する。 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

#### 7.取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	次項に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	次項に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱注意事項	使用前に使用説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 火気注意。
接触回避	接触、吸入又は飲み込まないこと。 空気中の濃度を暴露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 環境への放出を避けること。
保管	
安全な保管条件	室温(35℃以下)で直射日光・粉塵等を避けて保管する(凍結禁止)。火気厳禁。強酸化剤、強酸、強塩基から離して保管する。
安全な容器包装材料	密封可能な容器

## 8.ばく露防止及び保護措置

管理濃度	情報なし
許容濃度	
日本産業衛生学会	200ppm (260mg/m <sup>3</sup> ) (皮)(メタノールとして)
ACGIH	TWA-STEL C 100mg/m <sup>3(H)</sup> A4 (H) Aerosol only (エチレングリコールとして) TWA 200 ppm(H) STEL 250ppm(Skin) (メタノールとして)
設備対策	本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 高熱取扱いで、工程で蒸気、ヒューム、ミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。
保護具	
呼吸用保護具	必要に応じて個人用呼吸器保護具を使用すること。
手の保護具	換気が不十分な場合には、適切な呼吸器保護具を着用すること。
眼、顔面の保護具	必要に応じて個人用保護手袋を使用すること
皮膚及び身体の保護具	眼の保護具を着用すること。 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型) 必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。

## 9.物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	青色澄明
臭い	なし
融点/凝固点	-12℃
沸点又は初溜点及び沸騰範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	99℃(クリーブランド開放式)
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	水に100%可溶
n-オクタノール/水分配係数(log 値)	データなし

蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	1.09 (20/4℃)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
その他のデータ(放射性、かさ密度、 燃焼持続性)	データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	通常の条件においては安定である。
危険有害反応可能性	強酸化剤、強塩基と反応する。
避けるべき条件	加熱、火花、裸火などの着火源。
混触危険物質	強酸化剤、強塩基。
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、ホルムアルデヒド、その他刺激性/ 有害性のある煙霧や気体。

## 11. 有害性情報

急性毒性(経口)	ラット/経口 LD <sub>50</sub> 4000mg/kg (エチレングリコール)、 2500mg/kg (メタノール)であり、混合物の推定 LD <sub>50</sub> が 3930mg/kg。
急性毒性(経皮)	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	皮膚刺激(ウサギで、555mg/open,mild)且つ濃度10%を超えて いる。(エチレングリコールとして)
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	眼(ウサギ、1440mg/6h、Moderate)と皮膚刺激との加算法計 算による。(エチレングリコールとして)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	(メタノールとして)妊娠マウスの器官形成期に吸入ばく露した試 験において、胎児吸収、脳脱出などが見られ〔PATTY (5th, 2001)〕、さらに別の吸入または経口ばく露による試験でも口蓋 裂を含め、同様の結果が得られている〔EHC 196 (1997)、 DFGOT vol.16 (2001)〕。メタノールの生殖への影響に関して、 証拠の重みに基づく健康障害としての科学的判断がなされ、ヒト のデータは欠如しているが動物による影響は明確な証拠がある ことから、ばく露量が十分であればメタノールがヒトの発生に悪 影響を及ぼす可能性がある」と結論されている〔NTP-CERHR Monograph (2003)〕。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	(エチレングリコールとして)ヒトについて、「誤飲後 34 日以降に 意識障害、痙攣、昏迷状態がみられ、血液化学的検査では尿 素窒素、クレアチニン及び尿酸が増加、尿検査で蛋白尿及び 血尿がみられ、腎障害が認められている。腎生検で尿細管に組 織学的変化がみられている。また、肺の軽度なうっ血がみられ た」「急性影響は 4 段階に分けられる。まずばく露後 30 分から 12 時間後に起こる中枢神経系への作用、次にばく露 12-36 時 間後に起こる心肺系への影響、さらに第 1 及び第 2 段階で死 亡(エチレングリコール)を免れた者にみられる腎臓障害、そして 中枢神経系の変性である。」との記載がある。 (メタノールとして)ヒトの急性中毒症状として中枢神経系抑制が 見られ、血中でのギ酸の蓄積により代謝性アシドーシスに至る。 そして視覚障害、失明、頭痛、めまい、嘔気、嘔吐、頻呼吸、昏

特定標的臓器毒性(反復ばく露)	<p>睡などの症状があり、時に死に至ると記述されている(DFGOT vol.16 (2001)、EHC 196 (1997))。また、中枢神経系の障害、とくに振せん麻痺様錐体外路系症状の記載(DFGOT vol.16 (2001))もあり、さらに形態学的変化として脳白質の壊死も報告されている(DFGOT vol.16 (2001))。標的臓器としてさらに、眼に対する障害が特徴的であるので視覚器を、また、代謝性アシドーシスを裏付ける症状として頭痛、嘔気、嘔吐、頻呼吸、昏睡などの記載もある。</p> <p>(エチレングリコールとして)ヒトについて、「意識消失、眼球振とう」「軽い頭痛と腰痛、上気道の刺激」との記載があり、実験動物については「肺及び心臓に炎症性的変化」との記載がある。</p> <p>(メタノールとして)ヒトの低濃度メタノールの長期ばく露の顕著な症状は広範な眼に対する障害だったとする記述[EHC 196 (1997)]や職業上のメタノールばく露による慢性毒性影響として、失明がみられた[ACGIH (7th, 2001)]。</p>
誤えん有害性	情報なし
<b>12. 環境影響情報</b>	
生態毒性	ニジマス 96h LC <sub>50</sub> =47mg/L(エチレングリコールとして)
残留性・分解性	情報なし
生態蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし
<b>13. 廃棄上の注意</b>	
<p>化学品(残余廃棄物)当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報</p>	<p>廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。</p> <p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。</p> <p>廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。</p> <p>容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p> <p>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。</p>
<b>14. 輸送上の注意</b>	
国際規則	
国際航空機輸送協会危険物規則(ICA/O/IATA)	該当しない
国際海上危険物規則	該当しない
海洋汚染物質	非該当
国内規制	
海上規制情報	該当しない
航空規制情報	情報なし
陸上規制情報	消防法の規定に従う。
輸送の特定の安全対策及び条件	<p>輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。</p> <p>危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。</p> <p>移動の際に、転倒、衝撃、摩擦、圧壊、漏洩などを生じないようにする。</p>

---

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。運搬中の事故等により災害が発生した場合は、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。  
重量物を上積みしない。

---

## 15. 適用法令

---

適用法令	
労働安全衛生法	該当:エチレングリコール(政令番号:別表第9の75) 該当:メタノール(政令番号:別表第9の560)
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
化審法	該当:エチレングリコール(2類、官報整理番号:2-230) 該当:メタノール(2類、官報整理番号:2-201)
消防法	該当:メタノール(第4類引火性液体、第三石油類水溶性液体)
大気汚染防止法	該当:メタノール(特定物質、政令番号:政令第10条第6号)
水質汚濁防止法	該当しない
水道法	該当しない
下水道法	該当しない
海洋汚染防止法	該当しない
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	該当しない

---

## 16. その他の情報

---

一般的注意	ここに記載された情報は、シスメックス株式会社の最善の見地に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行ってください。
その他の情報 略語	[注意] 本 SDS は JIS Z7253:2019 に準拠して作成しています。 化審法:化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律

---